

佐渡島可撫矣、是此港之概略也。

〔東遊記後編二〕新潟

越後國新潟は、信濃川其外の川に落合て海に入る所なり、海口近くの一ニ里の所は、川幅廣き事一里二里ばかり、渺々として湖の如く、入り海の如し、岸より岸まで水甚深く、淺瀬といふものなし、千石二千石の大船といへども、いづくまでも自由に出入りす、誠に川湊にては日本第一ともいふべし。○中略 新潟の町より舟を浮め、荷華を賞し、又は納涼など甚繁華といふ、舟船中より四方を見渡すに、西南より東北へ六七十里を見渡して山なし、西北には二十五里の所に佐渡山見ゆ。東方に奥州會津の山見ゆる、かくの如く四面打開きたる地にて、北海の廻船出入の大湊なれば、越後第一の繁華の地にて、青樓多くしてにぎやかに、又越後一國の米不殘此湊に由るゆゑ、諸大名藏多く建つ、只北方雪國の事ゆゑ、冬に成ぬれば河水冰閉て、舟の通行絶へ、陸地も雪深く、海上は十月より三四月頃までは、廻船も出る事あたはざれば、夏一季住べき國といふべし。

〔越後名寄六〕直江

頸城郡

直江今町ト云、此所ハ上越後也、湊へ落ルハ荒川也、委ク川ノ部ニ有、居家千軒餘櫓ヲ並テ賑セ侍、川道高田城下迄二里、舟ノ往來アリ。

〔越後名寄七〕長岡

古志郡

千手町ニ、毎七月七日ヨリ十三日迄日市立、諸方遠近ノ商人入集リ賑シ、中ニモ十日ノ日ニハ、同町内ニ觀音堂有テ、俗ニ欲詣トテ、參ル序ニ市ニ立故別テ賑フ、又近キ村里ノ農民、古脇指刀ヲ賣ニ持出ル、其中ニ折節名作ノ有ト申ス。

小千谷 魚沼郡

毎四月ヨリ七月迄、縮布ノ賣買市ヲ成ス、江戸、京諸方ノ商客來リ、甚ダ繁昌賑ヒ侍ル、最夥シキ商